

第 296 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 平成 25 年 11 月 5 日 (火) 11:50～13:20
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取合評 [番組名] K-mix WONDER '69
[放送日時] 平成 25 年 10 月 26 日(土) 11:00～12:55
[出演者] 久保ひとみ、ユーコタケダ
4. 出席者
[委員] 委員長 出口泰規 委員 木宮敬信
委員 角田哲康 委員 小野晃司
[会社] 取締役業務推進本部長兼営業推進部長 竹内照夫
放送本部長兼編成制作部長 久保田克敏
編成制作部副部長 寺田和史

5. 事務局報告

- 総務大臣からの「平成 25 年特定地上期間放送局の再免許に当たつての要請」について

6. 番組審議

[対象番組] K-mix WONDER '69

[放送日時] 平成 25 年 10 月 26 日(土) 11:00～12:55

[番組内容] 久保ひとみとタッグを組むのは、10 年ぶりに K-MIX に帰ってきたユーコ・タケダ。片や「静岡の顔」として磐石の人気を誇り、母としての視点も持つ久保。片や世界中を旅し、英語・韓国語も操る“独身貴族”ユーコ・タケダ。一見正反対のこの 2 人、実は 1969 年生まれの「同級生」。そんな 2 人が仲良く、時には激論を交わしてお送りする情報バラエティ。アラフォー世代ど真ん中のライブ・プログラム！

[聴取・合評での主な意見]

- 木宮委員 聴き易い番組だ。すらーっと自然に耳に入ってくる。ターゲットがはっきりしているし内容も分かり易い。私も 2 人と同い年なので、2 人の語る内容もよく理解できる。2 人の関係性も良く、キャラクターも役割分担もはっきりとしていて、良いコンビだと思う。ただ、2 人と違う世代のリスナーはどう感じるのかは気になるところだ。
- 角田委員 木宮委員とは逆の感想を持つ。同じようなスタイルのテレビトーク番組

に磯野貴理子、松居直美、森尾由美出演の「はやく起きた朝は・・・」があるが、あの番組は3人の個性が異なっているので観やすく聴き易いが、「K-mix WONDER '69」では、久保さんとユウコさんの2人とも磯野貴理子さんのような立ち位置で、企画意図とは異なり2人の視点の違いを感じない。久保さんは母親的視点ではなくユウコさん同様独身的だ。よって、トークの広がりを感じられない。2人それぞれが一方向的にしゃべりまくり、2人の間での押し引きがない。想像力を掻き立てる「間」も必要だ。話の内容も実は深く突っ込んでいない。お婆さんの世間話ならばよいが、公共の放送なので、若い世代から突っ込まれるくらいのメリハリが必要。言葉が聴き取りにくい箇所もあった。

小野委員

オープンニングトークが長い。早口で賑やかで、盛り上がるために2人で頑張っている、まくし立てている感じがして、時々言葉が聴き取りにくい。それぞれが個性を出すというより、互いの主張や話に同調している率が高く、どちらがしゃべっても、内容が変わらない感じがする。2人は学生時代にバブルを享受して、仕事に就いたらバブルが弾けた、という世代で、派手な消費文化を知っている世代だ。バブル時代のことを知らないリスナーもいる時代なので、リスナーが番組を聴いて、そうした時代背景が分るようにすれば、ほかの世代のリスナーもおもしろく聴けるのではないか。違った世代に聴いてもらうためには、2人それぞれに強いこだわりみたいなものが出てきた方がよい。さらに自分たちの世代だけで完結するのはなく、世代を跨いでいる感じを出すべきだ。現在のトークでは表面的に終わっている。

出口委員長

リスナーの対象が絞られている感じがする。喫茶店で隣の席のオバサンたちが話をしているのを聴いているような感じだ。2人の違いがなく、2人ともツッコミでボケがない。2人でしゃべりの取り合いをしているようだ。2人の違いをもっと出すべき。

会社サイド

前回（第295回）では、2人のパーソナリティの立ち位置、役割分担、トークの噛み合いなどについてご意見をいただきました。出演者、スタッフで共有し今後の糧としたいと考えます。今回（第296回）ご指摘いただきました点につきましても、今後の番組作りに反映させ、改善するよういたします。

7. その他

出口委員長から委員による放送設備見学の機会を設けるよう要請があり、次回開催時に実施する旨事務局から回答した。

8. 次回開催日 平成 26 年 1 月 7 日 (火) 16:00~17:30 を予定

以上

番組審議会委員長

出口 泰 規